

繊維製品の汚れ分析など

熟練の知恵DB化

都立産技研



熟練の知恵、勘をデータベース化。東京都立産業技術研究センター（東京都北区、片岡正俊理事長、03・3909・2151）は、同センターに持ち込まれた繊維製品の汚れ、ほつれなどの原因解析などをまとめた文書をデータベース（DB）化した。これまで受

▲……………
 若いスタッフがスムーズに対応できるようにDB化

託試験には、熟練したスタッフが個別に一件ずつ対応していたが、「若いスタッフがスムーズに対応するためにも必要」（担当者）として構築した。データは顧客からの案件がほとんどであるため外部には公開せず、センター内で使用する。繊維製品に関する試験は、クリーニング店、アパレルの卸、小売業者などから「顧客のクレーム案件を分析してほしい」と年間50件以上も持ち込まれている。構築したDBには過去の分析事例約1100件について写真と文字情報でまとめている。検索ワードを入力すると、似たような案件がピックアップされる仕組みだ。「繊維製品へのクレームは個々で異なるが、時代による変化はほとんどない」（同）ため、DBで残して生かせる情報だという。

同センターは第三者機関として、汚れ、ほつれ、変色、けは立ちなどの原因や処理方法を分析、評価に対応している。評価には数日以上かかるケースも多く、特に若いスタッフらの場合は「経験がないために見当がつかず」（同）時間がかかっていたという。